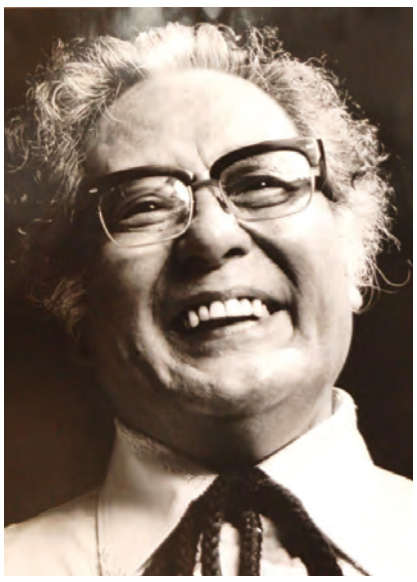
はだの文化通信 Nov. 2022.11
企画 クアーズテック秦野カルチャーホール指定管理者 ㈱タウンニュース社
harmonia ハルモニア

秦野が誇る画家・宮永岳彦

秦野市の芸術を語る上で欠かせない存在となっている、洋画家・宮永岳彦。「光と影の華麗なる世界」と称される美人画で知られた画家で、鶴巻には宮永の作品を常設展示する『秦野市立宮永岳彦記念美術館』がある。



宮永は父親の転勤のため、静岡県磐田郡(現・磐田市)で1919年に誕生。名古屋市立工芸学校(現・名古屋市立工芸高等学校)卒業後、松坂屋百貨店名古屋本店に入社した。宮永が秦野にやってきたのは、2度の兵役後のこと。実家のある秦野市名古木に帰りアトリエを構え、松坂屋百貨店銀座店宣伝部に勤務しながら、1946年から15年間にわたり創作活動を続けた。その後、活動の拠点を東京都新宿区筑土八幡町に移し、1987年4月に68歳で逝去した。

油絵はもちろんのこと、ポスター、書籍等の表紙画と装丁、挿絵、水墨画に及ぶ異色というべき多彩さで作品を残し、それぞれ第一級の先駆的業績をあげた宮永。特に知られているのは、『ペんてるくれよん』のパッケージ(向かいあう男の子と女の子)や『小田急初代特急ロマンスカー』(3000形SE車)の内外装のデザインだ。また、宮永は1974年にブラジルの日伯文化協会(現・ブラジル日本文化福祉協会)の依頼によって、当時の皇太子と皇太子妃(現上皇・上皇后陛下)の肖像画を描いている。この『皇太子・同妃両殿下御肖像画』はいずれも60号の大作で、サンパウロ市にある日伯文化協会皇太子記念館貴賓室に奉掲された。明治以降、日本人で宮内庁の正式な許可を得て天皇家を描いたのはこの作品だけといわれており、宮永はこの作品によって、ブラジル政府からサン・フランシスコ最高勲章グランクルース章を受章した。

このように名誉ある賞を受賞し、多種多様な作品を残した宮永は、実家・アトリエのあった秦野を〝ふるさと〟として愛していたという。クアーズテック秦野カルチャーホールの緞帳(大小ホールともに)や市内の学校校舎の壁画、カルチャーパーク中央にある噴水の像、秦野の夏の祭典『たばこ祭』のポスターなど、市内に多くの作品を残している。

宮永が手がけた第31回秦野たばこ祭のポスター

宮永岳彦記念美術館の魅力を紹介

秦野市立宮永岳彦記念美術館(秦野市鶴巻北3-1-2)
- 観覧料 一般300円、弘法の里湯利用の人200円
- 開館時間 10:00～19:00(入館は18:30まで)
- 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、12月28日～1月2日
- 問い合わせ ☎0463-78-9100

宮永岳彦記念美術館は、秦野市が遺族から作品の寄贈を受けたことをきっかけに2001年10月に開館した。市が所有する宮永の作品は約400点。ただしこれらの作品は評価価格がついたものに限り、印刷物などを合わせれば1000点近くの作品を所有していることになる。

年2回の展示替えも

同美術館では、油彩画、水墨画、童画、グラフィックデザインなど、多岐にわたる分野の作品を限られたスペースで展示するため、半年ごとにテーマを決め、総入れ替えで80点前後の作品を展示している。テーマや作品の配置を考えているのは、同美術館に勤務するスタッフ。「何度来ても新しい発見ができること」を目指し、毎回趣向の違うテーマを考え、工夫して展示しているという。

「誘惑する女」の見どころ

同美術館では現在、「誘惑する女」というテーマで作品展示を行っている。会期は来年3月26日(日)まで。同展示では、テーマタイトルを連想させる表情の女性像や、晩年の豪華な衣装の美人画を描くことにつながる裸婦画が多く展示されてる。「宮永が思い描く魅力(色気)のある力強い眼差しに注目してほしい」とスタッフ。油彩画とは異なる魅力がある表紙画の展示も、見どころの一つだという。

半年ごとに異なった雰囲気を楽しめる宮永作品の常設展示室のほか、同美術館には「市民ギャラリー」も併設されている。市民の創作活動の発表の場としても、同美術館は重要な役割を担っているのだ。

【豆知識】弟子の美術館も市内に

宮永の弟子である奥津国道の美術館もまた、秦野市内にある。奥津は、女性美と風景をこよなく愛した画家で、1932年に秦野で生まれ、宮永に師事した。同美術館では、奥津の作品を60点余り収蔵。代表的な美人画、水彩画等を常時展示している。

奥津国道美術館(秦野市曽屋1758)
☎0463-26-7312 水・木定休

カルチャーパーク彫刻探訪 Vol.2

FIGURES-LINE 作・松尾光伸
ふたたび 作・井上玲子
門状彫刻メタモルフェー 作・林田滋
陽光 作・土屋健
風 作・井上久照
ROPE I 作・岸豊治

秦野市が「彫刻のまち」なのを知っていますか?駅周辺や公園など、実は景観に調和し、さりげなく身近にアートが存在しています。
特に秦野市カルチャーパークは彫刻の宝庫なんです!そんな彫刻の数々を「はだの文化通信ハルモニア」内で少しずつ紹介していきます。散策ついでに、見つけてみてくださいね。

クアーズテック秦野カルチャーホール(秦野市文化会館)公演ガイド

小林幸子 & 東京室内管弦楽団 プレミアムコンサート
2022年 12月4日(日)
開場 13:30 開演 14:00 大ホール
料金全席指定 S席 7,000円 A席 6,000円

CIRCUS サーカス
45周年 NEW YEAR コンサート
2023年 1月21日(土)
開場 13:30 開演 14:00 大ホール
料金全席指定 S席 7,000円 A席 6,000円

Photo in Portugal by Rodrigo Sergio
2023年 1月15日(日)
予約制 限定100人
バンドネオン奏者
平田耕治さんを迎えて ティータイムコンサート Special
ピアノ 永易理恵
開場 13時30分 開演 14時
終演 15時45分予定 会場 大ホール ホワイエ
入場料 3,500円(デザートセット付)

ランチタイムコンサート
0歳からOK! Lunch Time Concert

吉田美紀(ソプラノ) 更田充恵(ピアノ)
ソプラノの歌声で華やかな新春を!
入場料 一般 3,500円 小学生以下 1,500円 (軽食付) ※2歳以下無料
予約制 限定30人
会場 2階 レストラン隣室
2023年 1月18日(水)
開場 11時 開演 11時30分
終演 13時予定

チケットのお求め・お問い合わせ 窓口販売 クアーズテック秦野カルチャーホール(秦野市平沢82) TEL 0463-81-1211

※新型コロナウイルス感染症予防のため、ご来場の際は検温・マスク着用のご協力をお願いいたします。 ※未就学児のご入場は保護者ご同伴の場合でもご遠慮いただいております(ランチタイムコンサート除く)。